

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度	平成17年～		
大項目	基本目標	03	地域文化と人が輝くまちづくり
中項目	基本施策	03	歴史と文化の輝くまちづくり
小項目	施策	02	文化財の保存と活用
事務事業名	02	旧閑谷学校世界遺産登録推進事業	
根拠法令・例規等	文化財保護法 閑谷学校世界遺産登録推進委員会会則		
担当課(室)	生涯学習課		
職・氏名	文化係長 石井啓		
電話	0869-64-1841		

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	閑谷学校や世界遺産に興味関心がある人。
目的(何のために)	閑谷学校の建造物とその創学の精神を受け継ぎ、未来の世代へ継承するために世界遺産への登録をめざす。
行政活動(どのような方法で)	講座や講演会等の開催。 署名活動。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	閑谷学校世界遺産登録推進委員会が他の民間団体と積極的に協力し、応援活動を盛り上げる。

事業の実績				
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
総会・講演会参加者数	人	51	51	25
署名件数	件	116,648	130,960	138,070
講座参加者数	人			48
直接事業費	千円	10	10	100
必要人員	人	0.20人	0.30人	0.38人
事業費計	千円	1,705	1,969	3,027
国・県支出金	千円			120
受 益 者 負 担 金	千円			
線 入 金 債	千円			
そ の 他 ()	千円			
一 般 財 源	千円	1,715	1,979	3,007
受 益 者 負 担 比 率	%			3.8%

結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
署名件数	件	116,648	130,960	138,070
対前年比	%	-	112.3%	105.4%
活動コスト	円	1,715,000	1,979,000	3,127,000
単当たりコスト	円	15	15	23
講座参加者数	人			48
対前年比	%	-	-	-
活動コスト	円			3,127,000
単当たりコスト	円	#DIV/0!	#DIV/0!	65,146

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
個人会員・団体会員数	目標値(A)	9	9	11	20
	実績値(B)			1	到達目標年度
	達成率(B/A)	0.0%	0.0%	9.1%	平成25年
成果指標設定の考え方・式や説明					
世界遺産についての理解を深めてもらい、賛同していただける会員を増やしていくことが必要であるため、成果指標に設定した。					

事業の目的、対象、内容を考えてながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成20年度事業)	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input checked="" type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	妥当性評価<A~E> B 判定理由・課題認識 実施当初から世界遺産登録の方向性が変化してきている。 平成19年に文化庁に提出していた提案書の審議結果が報告され、「近世の教育資産」という提案がなされた。これを受けて、事業の見直しや今後の取組みを検討していく必要がある。
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い 説明 世界遺産登録の署名が現在約13万8千件ある。	
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 文化庁から逆提案のあった「近世の教育資産」を受け、関連のある「足利学校」や「弘道館」等と連携を図り、調査研究を進めていく必要があるため、コストの削減は難しい。
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input checked="" type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	有効性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 閑谷学校の世界遺産登録については、多くの方の理解と協力が必要である。そのため、推進事業に協賛していただける会員を増やしていくかなければならない。

平成21年度の状況			
目標値	結果指標量①	結果指標量②	成果指標量
	143,000	60	12
状況	拡充 ○ 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了		
説明	文化庁から取組みについて「近世の教育資産」という主題のもとに、水戸市「弘道館」・足利市「足利学校」と連携を取り、今後の取組みについて協議していく。また、閑谷学校の世界遺産登録についての理解を深めていくため、様々な方法で周知を行っていく。		

総合評価	
文化庁より「近世の教育資産」という主題のもとに、詳細な調査・研究等を行い、他の同種資産と組み合わせることにより、将来的に世界遺産暫定一覧表に記載される可能性が示された。これを受けて、岡山県・水戸市・足利市と連携を深め世界遺産登録へ向け事業を展開していかねばならない。そのためコストの増加は避けられないが、より充実した事業になるように努めなければならない。	評価区分<A~E> B

平成22年度以降の方向性・内容							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						
説明	調査・研究を進めていく。また、周辺環境整備を行っていかねばならない。						
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果			
妥当性		事業内容の見直し。	平成22年	「近世の教育資産」という主題にあった事業を進めていくことができる。			
有効性		会員数を増やす。	平成25年	多くの人にこの事業に賛同してもらう。			